

防災 水害が 発生した際、 町の対応は

「私の視点」

温暖化の影響により記録的大雨が続いている。積乱雲が列をなして発生し、広範囲に数時間強い雨が降り続く「線状降水帯」という言葉が多く使われ、とても心配だ。



答弁（町長） 警戒レベルに応じ、情報発信等の対応を行う

問 近年は雨量が多く、最近では熊本県で平年の8月1か月分の2倍近くの雨が半日で降ってしまう時代となり、大変なことになっている。玉村町では南北に一級河川を抱えているが、線状降水帯などで水害が発生した際、どのような対応を考えているか。

答（町長）気象庁による上流域の雨量予測や、利根川・烏川の水位状況を判断材料として、警戒レベルに応じた避難情報を発令する。その際は「町ホームページ」「メルたま」「公式LINE」「たまボイス」等の全ての情報伝達手段を使い、注意喚起と避難情報を発信する。利根川・烏川の水位が上昇し、一定値を超える場合には、災害警戒本部の開設や水防団の待機、さらに水位の上昇が見込まれる場合には、災害対策本部の開設や避難所の開設、避難所への職員配置が行われる。

避難所への避難が必要となる場合には、雨が



日頃からの防災意識が、有事に備える上で最も重要

激しくなる前の明るいうちに安全に避難することが基本となる。移動することが困難な場合には、自宅の2階等への垂直避難や、浸水の危険のない親類や知人宅等への避難、また、町外の大型商業施設やホテル等への避難も選択肢の一つとなる。平時から避難先の検討をしておくこと、自分の命は自分で守るという意識を持ち、日頃から防災意識を持って有事に備えることが最も重要であると考えている。

町に宿泊施設を

問 町には、玉村八幡宮を中心とした観光地が増えてきているが、宿泊施設がないので、町に来た人に長く滞在してもらえない。企業等が研修生を受け入れているが、泊まるところがないため、他市町村での宿泊となり大変困っている。住みよい町を掲げるなら、1日も早く宿泊施設を誘致してはどうか。

答（町長）今年度に入りコンテナホテルの事業を行っている事業者より当町への進出に関する相談があり、候補地となりそうな土地についての情報提供を行ったが、要件に合致せず立地には至らなかった。引き続き、情報提供などを行ってていきたい。

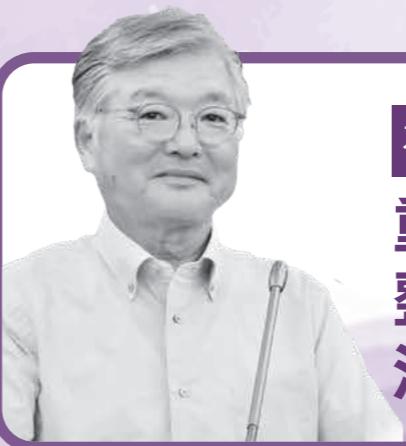
こんな質問もしています

- ・玉村町の外国人の対応について
- ・町内の危険箇所の道路の拡張及び路面の整備について

福祉 重層的支援体制 整備事業の 活動内容は

「私の視点」

重層的支援体制整備事業は、今ある行政サービスを、今必要としている人に確実に届けるため、各課の枠組みを超えて取り組むべき活動である。



答弁（町長） 早期発見・早期対応できる体制を今後とも強化

問 支援対象者の数は何人で何世帯か。

答（町長）支援の手段としては、接触が難しい人への定期的な資料の送付から就職相談や病院受診の同行まで様々であり、重層事業担当係が関わっている件数は36人で36世帯となっている。

問 ひきこもり家庭等とのコンタクトの方法は。

答（町長）直接訪問することもあれば、役場へ出向いてもらって面談をすることもある。また、電話連絡やそういったコンタクト自体を苦手とする方へも対応するため、郵送で当事者会などのイベントチラシを送付したり、絵はがきを送ったりすることで支援している。

問 他団体との連携は。

答（町長）社会福祉協議会とは、障害分野の相談や高齢者への配食サービス事業等、また、生活困窮者については、生活困窮者支援事業等で各種連携を取っている。区長や民生委員とは、顔の見える身近な支援者として地域の窓口となっていたり、役場へつないでいる。多機関で連携することにより、支援が必要な人の早期発見・早期対応できる体制を今後とも強化していきたい。

今後の農業支援策

問 大型農業機械の効率的な運用のために、農地区画の拡大を。

答（町長）畦畔（あぜ）除去による区画拡大や道路の整備拡幅、用排水路の整備などでは地権

者と担い手の双方の意見を集約し、町の実情やニーズに合わせた取組が必要となる。現在、農地中間管理事業を活用して、農地の集積・集約化を促進し、地域の農業を持続可能なものとする取組も行われており、町としても農業の生産性向上と担い手育成を引き続き支援していく。

問 若い世代の農業従事者に対し、町ができる支援策は。

答（町長）認定新規就農者が2名おり、新規就農者育成総合対策事業に係る経営開始資金の交付を行い、就農開始時の経営安定に向けた資金支援を行っている。また、町職員・佐波伊勢崎農業協同組合職員・群馬県職員・玉村町の農業経営士をメンバーとしたサポートチームを作成し、定期的に運営や技術支援等も行っている。



増える休耕地

